



陽気は幸せの種

陽気だより

図書出版 養徳社
〒632-0016
天理市川原城町388
TEL 0743 (62) 4503
FAX 0743 (63) 8077

養徳社 検索

ホームページからご覧いただけます

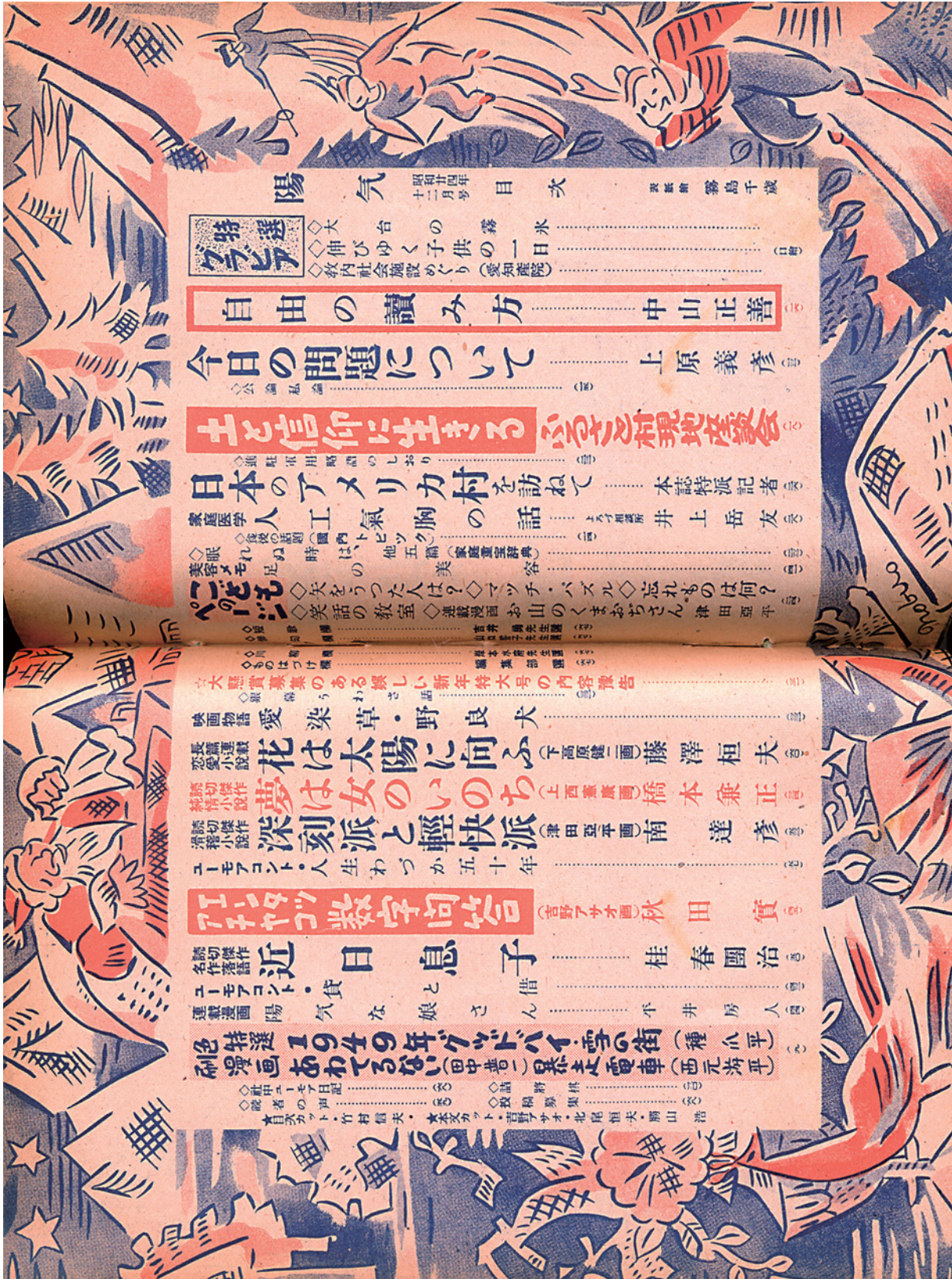
No70

2013.1.15

第7号 (昭和49年12月号) から

『陽気』は、昭和24年4月の創刊、今年で64年を迎えます。過去の記事から、その歩みの一端を振り返っていきます。

昭和二十四年十二月号 『陽気』の目次



陽気 昭和廿四年 十二月号 目次 表紙画 霧島千歳

特選 ◆大台の霧氷 白野
◆伸びゆく子供の一日 白野
◆教内社会施設めぐり (愛知産院)

自由の読み方 中山正善

今日の問題について 上原義彦
◆公論私論

土と信仰に生きる 心算と植現地産家
◆遊駐軍用路開のしおり

日本のアメリカ村を訪ねて 本誌特派記者

医学人 人工気胸の話 よう解野井上岳友
◆後夜守園園内トピック

子ども 美
◆矢をうつた人は? ◆マツチ・パズル ◆忘れものは何?
◆笑話の教室 ◆連載漫画 お山のくまおちさん 津田亞平

大懸賞募集のある楽しい新年特大号の内容報告 三

映画物語 愛染草・野良犬 色

長編連載 花は太陽に向ふ (下高原健画) 藤澤桓夫

純情小説 夢は女のいのち (上西薫画) 橋本兼正

滑稽小説 深刻派と軽快派 (津田亞平画) 南 達彦

エッセイ 人生わづか五十年 色

アヒヤツ数字向台 (宮野アサ画) 秋田 實

近日常子 佳春團治

ユーモア 人生わづか五十年 色

連載漫画 陽気な娘さん 平井房人

特色特選 1949年グッドバイ雪の街 (種小平) 色

漫画 あわてるない (田中浩二) 暴走電車 (西元清平) 色

◆直中ユーモア日記 色 ◆読者投稿 色
◆読者の声 色 ◆投稿野果 色
★目次アート 竹村信夫 ★本文カット 野野ササ、北尾桓夫、勝山浩



—「陽気」昭和二十四年十二月号より—

日本のアメリカ村を訪ねて

本誌特派記者

黒潮のしぶきをあびて

トンネルの多い紀勢西線を、汽車の煤にまみれて御坊駅に着いた。白浜行の花やかな旅客を乗せて汽車が出ると、後はひっそりとした駅の構内に、臨港線の軽便鉄道が待っている。これは御坊の町へ通じているのであった。

バスも御坊駅から出ていた。一日数回でなくでないかのバスは、最近ようやく三尾村まで開通したが、このバスの中で初めてアメリカ調を発売した。

派手な明るい色彩の服を着た二十歳ぐらいの娘さんがのりこんだ。桃色のパラソルに桃色のワンピース、

ます」

靴もシュミットの斬新なスタイルだった。「三尾村へお帰りですか？」と記者は娘さんに話しかけた。「はあ」「戦後アメリカから帰ってこられたんですか？」「いいえ。でもパパが今ロサンゼルスに居ますから、いづれ行きたいと思っています」

「行こう、行こう」の紀州弁を物珍しくきいていた記者は、はつきり標準語で答える娘さんを見直した。娘さんは普通日本でロサンゼルスと云う処を、ロサンゼルスと発音した。バスは右手は崖、左手は太平洋の黒潮が打ちよせる絶壁を、ぐるぐる廻りながら進む。まっ黒い、その名の通り黒潮が、絶壁の岩に当たって、今にもバスの中まで飛びこんで来るような勢いであった。

世界の果て、とは少し大げさだが、日本の隅といっても過言ではあるま

『陽気』創刊のころ

『陽気』は昭和二十四年、本教教理を基本に置きながらも、教内外を問わない家庭雑誌として創刊された。したがって、当時の売れっ子作家や芸能人を多数起用し、陽気で楽しい雑誌をめざしたが、彼らのほとんどが二代真柱の交友関係者であることも興味深い。

い。景色は非常に美しいが、人跡未踏という感じのする山々のすそを、高く低く、ぐるぐる廻ってバスは進んで行く。

間もなくバスは和歌山縣日高郡三尾村に着いた。これから日ノ御崎までは、自転車でも難しいそうだ。バスはここから引きかえして行く。

赤と緑のカーペット

バスより降り三尾村をぐるりと見渡すと、山と海にかこまれた戸数三百戸ばかりの集落は、何の変った所もない半島尖端の小寒村だが、じつと眼をこらすと、瓦ぶきの屋根にまじってぼつぼつとこんな田舎にふさわしくない西洋風の家が建っている。坂道を下って行くと、だんだんと西洋風の建物が多いのに気づく。その西洋館の裏手には、目もさめるような鮮やかな赤とグリーン縞のカーペットが乾してあった。その下に頭髮をのびし、しゃれた服を着こん

地獄みみ

雑誌『陽気』の「氣」が、「氣」から「氣」に変わったのは昭和四十六年一月号からだ。特段理由があったわけではないらしい。雑誌『文芸春秋』の元編集者で、昭和十九年の養徳社設立当初から当社の編集長をつとめた庄野誠一氏の嘉津子夫人の提案だという。画数が多い氣より少ない氣のほうがすっきりする氣がして」とは夫人の証言。

だ五つ六つの男の子が一人遊んでいた。「お父さんは？」記者は尋ねた。「パパはキャナダ」「お母さんは？」「ママはコック」「コック？」「ケチンでコックだよ」

なるほど、台所で炊事をしているというのか。カナダをキャナダと発音し、炊事をコック、台所はケチンという、アメリカ語交じりの日本語をきいて、記者はようやく三尾村のアメリカ村と云われる所以を知った。

お道の家庭雑誌

陽気

受定期購読中

◎定期購読の誌代は1冊で半年分…1,600円(送料共) 1年分…3,200円(送料共)

ゆうちょ銀行の青い振込用紙をご利用下さい。
(口座番号 00990-3-17694 加入者 養徳社)
希望の号を指定の上、お客様の住所、氏名、
電話番号をはっきりご記入お願いします。

〒632-0016 奈良県天理市川原城町 388 養徳社